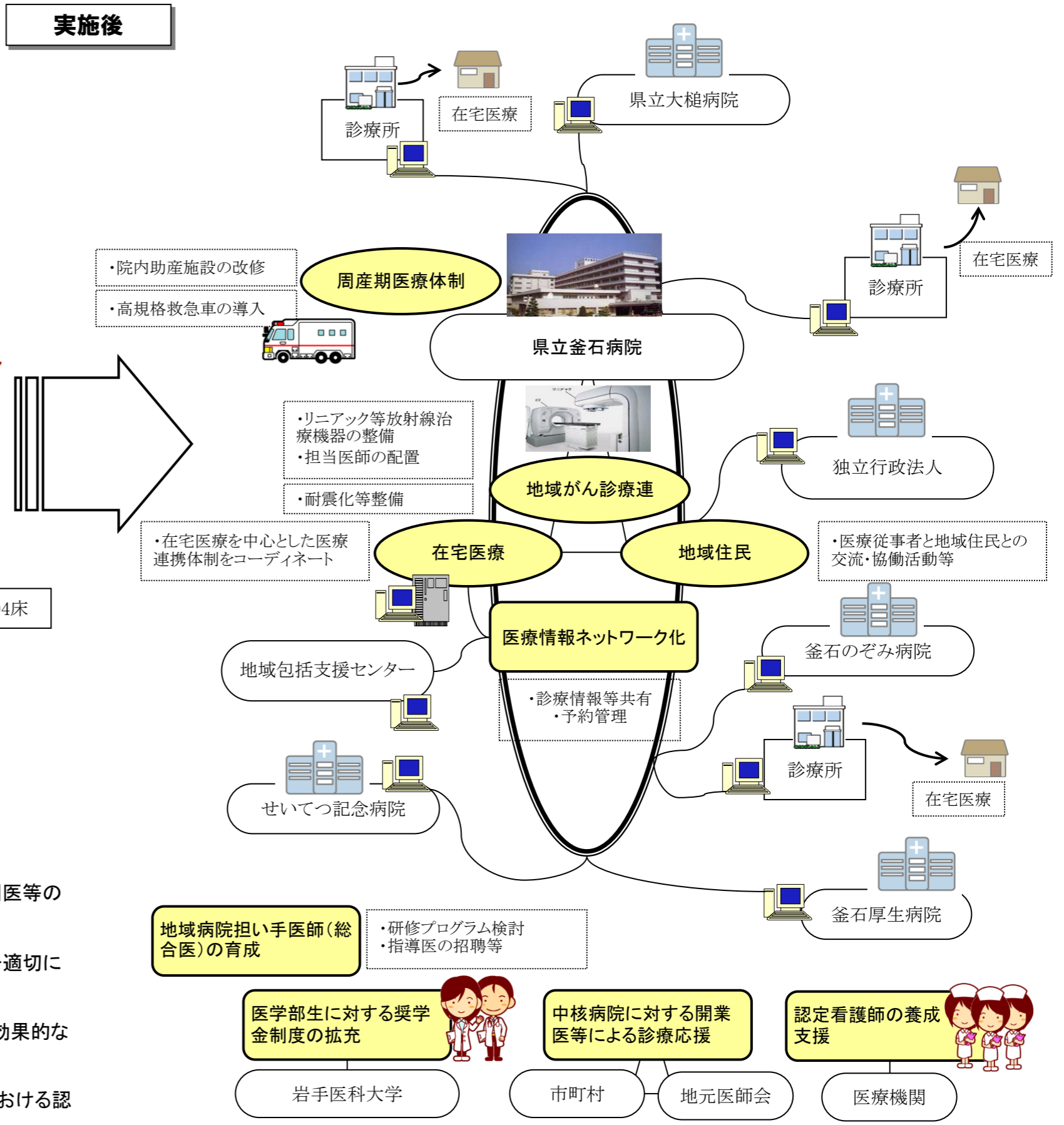
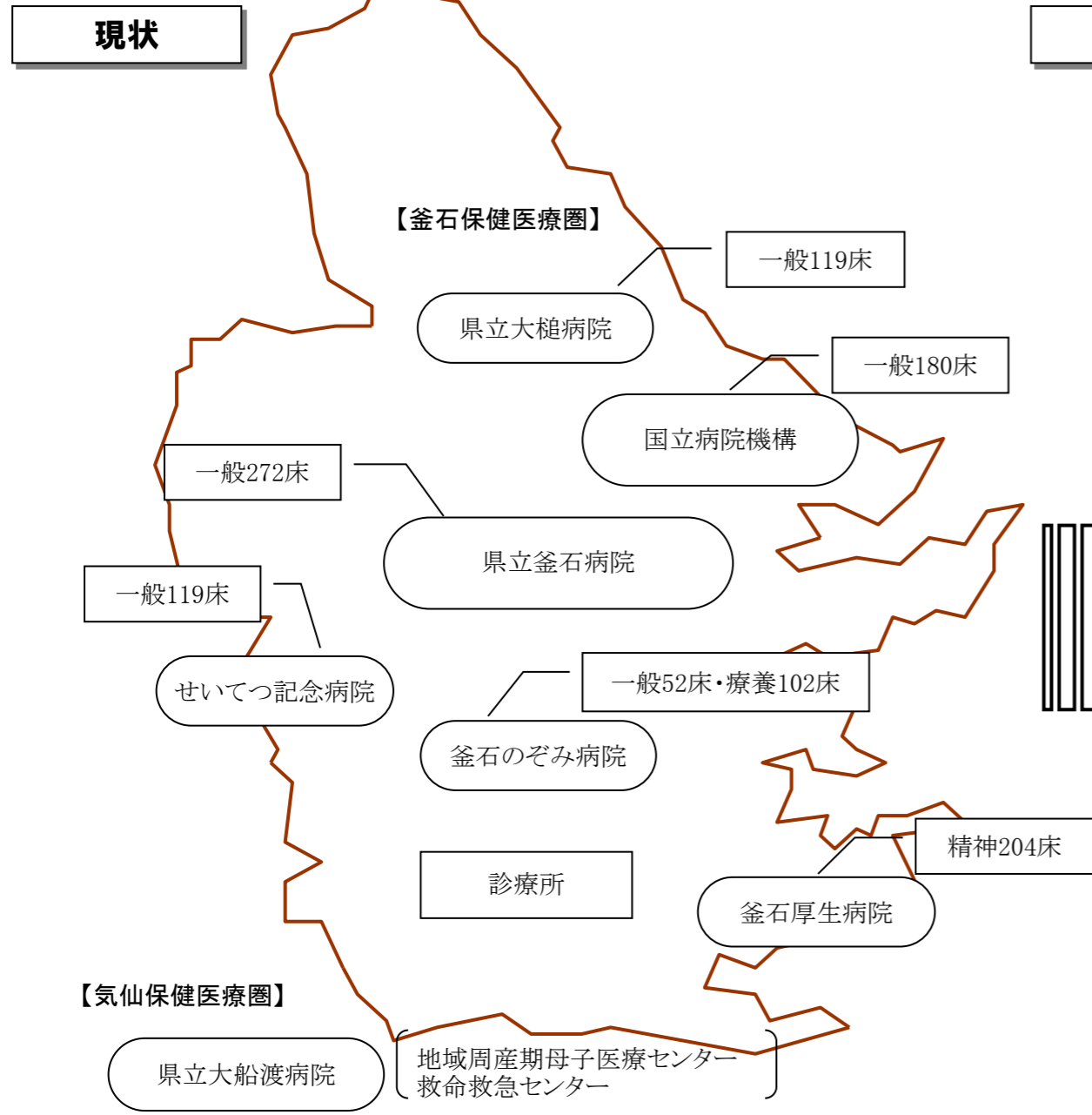


岩手県地域医療再生計画【釜石保健医療圏】

(地域がん診療連携拠点病院の整備、在宅医療の推進等に重点化)



課題

- 全県で唯一地域がん診療連携拠点病院が未整備(放射線治療機器の導入と専門医等の計画的配置が必要)
- 産科医が不在(県立大船渡病院と連携した院内助産システム、妊婦等搬送体制を適切に維持していくことが必要)
- 在宅医療の拡充等、医療提供施設・介護施設等が一体となった地域医療連携の効果的な推進
- 医師の不足(地域病院等において総合的な診療ができる医師)、特定看護分野における認

釜石保健医療圏における課題を解決する方策

1 課題を解決する方策

課題(1)

- 全県で唯一地域がん診療連携拠点病院が未整備(放射線治療機器の導入と専門医等の計画的配置が必要)

【目標】

県立釜石病院を地域がん連携拠点病院として整備し、がん治療に係る圏域の完結性を向上する。

【対策】

県立釜石病院にがん放射線治療機器を整備するとともに、担当医師を配置のうえ、地域がん診療連携拠点病院の指定による強化事業に取り組む。併せて、病院施設の耐震化等を図る。(15.5億円)

- ① 平成23年度までに、県立釜石病院に附属棟及びリニアック等の放射線治療機器を整備し、平成24年度から地域がん診療連携拠点病院強化事業を開始する。
- ② 圏域の中核病院・災害拠点病院でもある県立釜石病院施設について、耐震補強その他施設の維持に必要な改修を図る。

課題(2)

- 産科医が不在(県立大船渡病院と連携した院内助産システム、妊婦等搬送体制を適切に維持していくことが必要)

【目標】

効率的な院内助産の提供、妊婦・新生児等の搬送体制の充実を図り、産科医が不在であっても安心できる周産期医療体制を維持する。

【対策】

県立釜石病院の院内助産施設を改修整備するとともに、妊婦、新生児の周産期母子医療センターへの搬送等のため、新たに高規格救急車を配備する。(0.7億円)

課題(3)

- 在宅医療の拡充等、医療提供施設・介護施設等が一体となった地域医療連携の効果的な推進

【目標】

関係医療団体・市町と連携し、医療連携体制をコーディネートする中核組織の設置と医療情報ネットワークシステムの導入を図り、圏内において在宅医療の普及等を推進する体制を確立する。

【対策】

新たに在宅医療推進センター(仮称)を設置するとともに、圏内の医療情報ネットワークシステムを構築する。併せて、地域住民の活動拠点を整備し、これらの連携を図る。(3.1億円)

- ① 県立釜石病院附属棟内に、医療連携体制をコーディネートする在宅医療推進センター(仮称)を設置し、同院地域医療福祉連携室と一体となって、圏内保健医療福祉関係機関が連携して活動する。
- ② 圏内の病院・診療所間で診療情報・検査データ等の共有や予約管理ができるネットワークシステムを構築する。

課題(4)

- 医師の不足(地域病院等において総合的な診療ができる医師)、特定看護分野における認定看護師の充足

【目標】

医師の絶対数を確保するとともに、地域病院等において総合的な診療ができる「総合診療医」を養成し、県内への定着を図る。また、認定看護師の配置を拡大する。

【対策】

医師奨学金制度の拡充や「総合診療医」の育成、医療機関における認定看護師の養成の支援等を図り、医師の確保と看護師の専門性を高めるための全県的な仕組みを拡充する。(5.7億円)

- ① 市町村が地元医師会の協力を得て行う開業医等の派遣による中核病院に対する診療応援事業を支援する。

な診療を行うことができる、いわゆる「総合診療医」育成のための研修プログラムの構築と当該プログラムによる医師養成研修を開始する。

- ③ 医学部の定員増に対応して、将来、岩手県内の公的病院に医師として従事する意思を有する学生の修学を支援する。
- ④ 認定看護師の育成を促進するため、医療機関による認定看護師教育専門課程への看護師の派遣を支援する。

2 地域医療再生計画終了時の姿

- これらの方策によって、この地域は、県立釜石病院を中核として、がん治療に係る圏域での完結性が高まるとともに、産科医の不在を補い、また、在宅医療等の推進体制が確立される。
- また、今後、医師の絶対数を増やし、地域病院において診療に従事する医師等の確保に向けた、医師養成、看護師の専門性向上のための全県的な仕組みが拡充される。